

一次評価の評価項目・評価基準（東京国際クルーズふ頭）

【資料1】

大項目	中項目	確認項目				
管理状況	適切な管理の履行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		人員配置（配置数、配置箇所、専門性等）	×1			
		人材育成の取組（専門性向上）	×1			
		施設の使用許可等（公平な利用者選定）	×1			
		施設の維持補修・修繕	×1			
		施設の警備	×1			
		施設の清掃	×1			
		施設の緑地管理	×1			
		施設の維持管理	×1			
		【評価の内容】				
	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		防災・防犯への配慮	×1			
		施設・設備の安全性の確保	×2			
		事件・事故への対応	×1			
		【評価の内容】				
	法令等の遵守	個人情報保護、報告等は適切に行われているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		個人情報保護・情報公開の取組（内部規定の策定、研修等）	×1			
		各種法令等の遵守	×1			
		利用記録等各種情報の管理	×1			
		情報事故への対応	×1			
		【評価の内容】				
	適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		収支状況	×1			
		経理処理	×1			
		都有財産等（物品・現金等）の管理	×1			
		経理・現金に関する書類等の管理	×1			
		【評価の内容】				
事業効果	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		客船受入時の関係者との調整	×2			
		乗客誘導方法	×2			
		車両誘導方法	×2			
		重要国際埠頭施設の警備	×2			
		広報活動	×2			
		【評価の内容】				
	施設の魅力向上	事業計画に沿って施設の魅力向上に取り組んでいるか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		客船寄港時の魅力向上策	×2			
		客船寄港時以外の魅力向上策	×2			
		【評価の内容】				
	利用者の反応	利用者の満足を得られているか。	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		職員の接客対応（職員の親切さ、説明の分かりやすさ等）	×2			
		客船受入の対応（乗客、車両誘導の円滑さ等）	×2			
		施設の使いやすさ	×2			
		利用料金の水準	×2			
		施設の利活用の企画内容	×2			
		【評価の内容】				
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか。	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		都及び関係機関等との連携	×2			
		都の実施施策への協力	×2			
		【評価の内容】				

特 記 事 項	
要 改 善 事 項	

【一次評価結果】

評 点	標 準 点	評価基準				一次評価結果	得 点	
		S	A	B	C			
	48点	64点以上	63点以下 60点以上	59点以下 43点以上	42点以下			

【確認事項】

1. 財務状況

指 定 管 理 者 の 財 務 状 況	
------------------------	--

管理運営状況の一次評価結果（東京国際クルーズふ頭）

大項目	中項目	確認項目				
管理状況	適切な管理の履行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		人員配置（配置数、配置箇所、専門性等）	×1		○	
		人材育成の取組（専門性向上）	×1	○		
		施設の使用許可等（公平な利用者選定）	×1		○	
		施設の維持補修・修繕	×1		○	
		施設の警備	×1	○		
		施設の清掃	×1	○		
		施設の緑地管理	×1		○	
		施設の維持管理	×1		○	
		【評価の内容】 基本協定、管理運営基準、業務実施計画等に基づき適切に履行されており、管理上必要な修繕も適切に行われている。 スタッフには接遇等の研修をはじめ、専門性及びサービスの向上のための各種講習を受けさせている。上級救命技能はスタッフ全員が認定を受け、常時救急救命活動が行える体制となっている。大型客船の受入れに備え、他港のオペレーション等の視察を実施し、知見を深めさせている。 大型客船等の入港時に入場規制を実施した際は、施設周辺で丁寧に案内するなどトラブル抑止に努めた。また船舶への要人来訪時には警備レベルを強化し、事件等の起きにくい環境を作りだした。 清掃については、当初事業計画（年4回）を上回る窓清掃（年12回）や計画外特別清掃を実施し、美観の保持に努めた。また、オーバーナイトの客船係留時や、帆船一般公開時等に行った営業延長の際には、早朝夜間にも清掃員を配置し清潔な状態を維持した。				
	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		防災・防犯への配慮	×1		○	
		施設・設備の安全性の確保	×2	○		
		事件・事故への対応	×1		○	
		【評価の内容】 日常点検・対応処理の記録及び緊急時のマニュアル等が整備され、緊急連絡体制も整っている。 暴風によるボーディングブリッジの破損を受け、社内の技術者と現場検証を実施。都の調査や関係者協議にも積極的に協力し、船と接続させる伸縮床の伸長が許容範囲内か否かが一目でわかる塗装を施すなど再発防止措置を講じた。また、施設内放送が聞き取りづらい場所への非常放送設備の増設や、外部階段に滑り止め舗装を講じるなど、施設の安全性を高めた。				
	法令等の遵守	個人情報保護、報告等は適切に行われているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		個人情報保護・情報公開の取組（内部規定の策定、研修等）	×1		○	
		各種法令等の遵守	×1		○	
		利用記録等各種情報の管理	×1		○	
		情報事故への対応	×1		○	
		【評価の内容】 社内規程等が整備され、適切な管理が行われている。情報事故は起きておらず、法令等も順守されている。				
	適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		収支状況	×1		○	
		経理処理	×1		○	
		都有財産等（物品・現金等）の管理	×1		○	
		経理・現金に関する書類等の管理	×1		○	
		【評価の内容】 経理、財産処理は、関係書類等が整理され、適切に行われている。利用料金にかかるインボイス対応等にも適切に対処している。				
事業効果	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		客船受入時の関係者との調整	×2	○		
		乗客誘導方法	×2		○	
		車両誘導方法	×2	○		
		重要国際埠頭施設の警備	×2		○	
		広報活動	×2		○	
		【評価の内容】 前年度よりも客船寄港数・延べ日数が倍増したが、個々の乗客数とツアー形態に応じた館内外レイアウトや警備に係る事項等を関係者間で確認し必要な調整を行っている。入港時のレイアウトや車両情報等を記録してノウハウを蓄積し、次回寄港時や類似の初入港船寄港時に効率的なオペレーションができるよう備えている。また、悪天候に伴う入港前倒しの要請3件に対し、関係者との迅速な調整と警備員の確保で受入れを可能にした。当日は手薄になった観光インフォメーションも支援しサービス維持に努めた。 車両誘導においては、事前に関係者と密に連絡をとり、配車計画を把握した上で、受入当日は警備スタッフ間での確に情報共有し、必要に応じて桟橋上や連絡橋を活用しながら、事故の発生なく円滑に行った。乗客送迎の根幹を担うタクシーの確保が課題だったが、SNSを用いて利用状況等をリアルタイムで周知することで、配車対応を強化した。また、乗船客等から要望が寄せられていた自家用車の留め置きについて、対応を検討のうえ受け入れを開始し、サービスを向上させた。				
	施設の魅力向上	事業計画に沿って施設の魅力向上に取り組んでいるか	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		客船寄港時の魅力向上策	×2		○	
		客船寄港時以外の魅力向上策	×2		○	
		【評価の内容】 SIMカード販売機を新たに設置したほか、一部のクルーズ客船の寄港に合わせて臨時売店を設置する等、乗下船客や船員へのサービス向上に寄与した。 客船寄港時以外にも、帆船寄港時の開館時間延長等の一般来場者向けサービス、テレビ番組等の撮影受入れ及びロケハンへの積極的な対応、小学校から大学院まで幅広い層の施設見学受入れを行った。また、季節感のある空間装飾に加え、新たに、寄港した客船一覧の写真展示を開始しており、施設の魅力向上に努めている。				
	利用者の反応	利用者の満足を得られているか。	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		職員の接客対応（職員の親切さ、説明の分かりやすさ等）	×2		○	
		客船受入の対応（乗客、車両誘導の円滑さ等）	×2		○	
		施設の使いやすさ	×2		○	
		利用料金の水準	×2		○	
		施設の利活用の企画内容	×2		○	
		【評価の内容】 一般来館者や船舶代理店からは概ね高い評価が得られている。問合せ等への対応内容や苦情・要望等について、適切に記録されている。				
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか。	配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点
		都及び関係機関等との連携	×2	○		
		都の実施策への協力	×2	○		
		【評価の内容】 軍艦や帆船の寄港並びに関連行事について都、防衛省、大使館等と連携し、外交・親善活動が安全かつ円滑に進むように努めた。また、クルーズふ頭では初となる東京みなと祭の開催に向け、都や同祭協議会と綿密に調整し、船の一般公開などイベントの成功に寄与した。地域連携としてまちづくり協議会主催のPTに参加し、客船受入状況や施設の利用手法を紹介した。保安部のテロ対策合同訓練や、検疫所による感染症対策訓練を受け入れるなど、都をはじめ関係各者と連携して施設を運営した。 都のサイン設置に向けた施工協議、都主催サイクリングイベントや実証実験への場所提供等、都の実施策にも多数協力した。				

特記事項	外航クルーズの本格的な再開により、客船寄港の延べ日数は、4年度から倍増の74日間となった。また、開業以来初めて1隻1,000人を超えるクルーズ客船の発着を受け入れた。令和6年3月に初寄港した3,000人超の大型客船の受け入れをはじめ、本施設にとってはこれまで経験のない1年となったが、適切な準備と、関係者との連携構築、質の高い警備・清掃等によって、大きなトラブルなく東京の海の玄関口としての機能を全うできたことは、高く評価できる。
要改善事項	特になし。

【一次評価結果】

評点	標準点	評価基準				一次評価結果	得点	A
		S	A	B	C			
	48点	64点以上	63点以下 60点以上	59点以下 43点以上	42点以下		61点	

【確認事項】

1. 財務状況

指定管理者の財務状況	別紙「事業者の財務状況の確認」のとおり、港湾施設の管理運営事業を行うに当たり、財務状況による支障等は見受けられない。
------------	--

指定管理者の管理運営状況評価について

第 1 一次評価（所管局による評価）

(1) 確認項目の評価基準

評価に当たっては、施設の設置目的や指定管理者が果たすべき役割などを踏まえ、各確認項目について、「水準を上回る（2点）」、「水準どおり（1点）」及び「水準を下回る（0点）」の3段階で評価を行う。

各確認項目について、施設の管理運営において所管局が求める水準を評価水準として定め、なるべく客観的な事実及び情報に基づき、達成状況を分析する。

(2) 一次評価の評価基準

各確認項目の評価の得点の合計点に基づき、一次評価を決定する。

<東京国際クルーズふ頭>

大項目	項 目		確認項目数
管理状況	適切な管理の履行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか	8
	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか	3
	法令等の遵守	個人情報保護、報告等は適切に行われているか	4
	適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか	4
事業効果	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか	5
	施設の魅力向上	事業計画に沿って施設の魅力向上に取り組んでいるか	2
	利用者の反応	利用者の満足を得られているか	5
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか	2
合 計			33

(3) その他

一次評価では、確認項目の評価のほか、指定管理者の財務状況に関して、分析等を行う。

第 2 二次評価（評価委員会による評価）

(1) 評価の内容

評価委員会は、施設の設置目的、所管局の示した管理運営において求める水準、指定管理者が果たすべき役割などを踏まえた上で、各種資料を基に、一次評価の内容について検証し、管理運営状況、事業効果その他について客観的・専門的な評価を行う。

更に評価委員会は、公の施設の設置目的を最大限発揮させていくという観点から、所管局に対して指定管理者のサービス水準の向上、効率的な運営の推進等に関する助言を行うことができる。

(2) 二次評価の評価基準

二次評価は、次の4段階で決定する。

評 価	内 容
S	管理運営が優良であり、特筆すべき実績・成果が認められた施設
A	管理運営が良好であり、管理運営に係る様々な点で優れた取組が認められた施設
B	管理運営が良好であった施設
C	管理運営の一部において良好ではない点が認められた施設

「S」評価は、特に優れた取組を行い、成果をあげている指定管理者を評価するために用いることとする。よって、「S」と位置づける場合は、指定管理者の取組や成果が真に当該評価に該当するものであるか、十分に検証することとする。

第3 総合評価

所管局は、一次評価及び二次評価結果に基づき、総合評価を決定する。

対 象 施 設		東京国際クルーズふ頭	指定管理者	東京国際クルーズターミナル グループ (東京港埠頭株式会社)
確認 項目	確 認 内 容	意 見 ・ 検 討 内 容 等		
事 業 者 財 務 状 況	経営資本営業利益率 (%)	率、ランクとも選定時を下回っている。		
	経営資本回転率 (回)	率、ランクとも選定時と同等の水準を維持している。		
	売上高営業利益率 (%)	率は選定時を下回っているが、ランクは選定時と同等である。		
	流動比率 (%)	率は選定時を上回っているが、ランクは選定時と同等である。		
	自己資本比率 (%)	率は選定時を上回っているが、ランクは選定時と同等である。		
	固定資産長期資本比率 (%)	率は選定時を下回っており、ランクは選定時を上回っている。		
	総 評	令和5年度も選定時（令和元年度）同様に、港湾施設の管理運営事業を行うに当たり、財務状況による支障等は見受けられない。		

(1) 損益計算書（東京港埠頭株式会社 損益計算書）

(単位：千円)

科 目 (項目)	R1年度 (選定時)	R4年度	R5年度
売上高(営業収益) A	18,378,877	18,333,088	18,324,126
売上原価 B	14,600,973	15,351,144	15,514,972
販売費及び一般管理費 C	751,191	732,362	724,497
〔営業利益〕 D=(A-(B+C))	3,026,712	2,249,581	2,084,657

(2) 貸借対照表（東京港埠頭株式会社 貸借対照表）

(単位：千円)

科 目 (項目)	R1年度 (選定時)	R4年度	R5年度
流動資産 a	28,457,496	32,397,463	37,009,245
事業資産 b			
事業資産建設仮勘定 c			
固定資産 d	72,134,857	65,431,104	60,557,510
うち建設仮勘定 d-2	762,822	1,617,035	2,546,451
うち投資その他の資産 d-3	8,697,850	8,804,195	7,970,745
繰延資産 e	0		
〔資産の部 計〕 E=(a+b+c+d+e) E=(a+d+e) (H20～)	100,592,354	97,828,568	97,566,755
流動負債 f	5,916,374	6,833,980	5,702,485
固定負債 g	35,545,811	27,315,800	25,907,704
引当金 h			
〔負債の部 計〕 F=(f+g+h) F=(f+g) (H20～)	41,462,185	34,149,780	31,610,190
資本金 i	16,855,000	16,855,000	16,855,000
羽田沖浅場維持管理基金 j			
資本剰余金 l	14,435,904	14,435,904	14,435,904
利益剰余金 k	27,839,263	32,387,883	34,665,660
評価・換算差額等その他 n	0	0	0
〔純資産の部 計〕 G=(i+j+k) G=(i+l+k+n) (H20～)	59,130,168	63,678,788	65,956,564
〔負債・純資産の部 計〕 H=(F+G)	100,592,354	97,828,568	97,566,755

(3) 経営資本（年度期首期末平均）

(単位：千円)

項 目	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
〔経営資本〕 E-c-(d-2)-(d-3) E-(d-2)-(d-3)-e (H20～)	91,131,682	87,407,338	87,049,559
		R3・R4年度	R4・R5年度
	期首+期末の平均	89,566,792	87,228,449
項 目	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
〔固定負債・純資産合計〕 G+g	94,675,979	90,994,588	91,864,268

【比較表】

	選 定 時		R4年度		R5年度		ランク比較
	比率等	得 点	比率等	得 点	比率等	得 点	
経営資本営業利益率 (%)	3.43	2	2.51	1	2.39	1	下回
経営資本回転率 (回)	0.21	1	0.20	1	0.21	1	同等
売上高営業利益率 (%)	16.47	5	12.27	5	11.38	5	同等
流動比率 (%)	481.00	5	474.06	5	649.00	5	同等
自己資本比率 (%)	58.78	5	65.09	5	67.60	5	同等
固定資産長期資本比率 (%)	76.19	3	71.91	4	65.92	4	上回

【ランク表】

	算 出 結 果 範 囲				
	ラ ン ク				
経営資本営業利益率	～2.5	2.5～3.5	3.5～4.5	4.5～5.5	5.5～
	1	2	3	4	5
経営資本回転率	～0.5	0.5～0.8	0.8～1.2	1.2～2.2	2.2～
	1	2	3	4	5
売上高営業利益率	～2.5	2.5～3.5	3.5～4.5	4.5～5.5	5.5～
	1	2	3	4	5
流動比率	～70	70～90	90～120	120～200	200～
	1	2	3	4	5
自己資本比率	～25	25～35	35～45	45～55	55～
	1	2	3	4	5
固定資産長期資本比率	95～	95～85	85～75	75～65	65～
	1	2	3	4	5

対 象 施 設		東京国際クルーズふ頭	指定管理者	東京国際クルーズターミナル グループ (株式会社シミズオクト)
確認 項目	確 認 内 容	意 見 ・ 検 討 内 容 等		
事 業 者 財 務 状 況	経営資本営業利益率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	経営資本回転率 (回)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	売上高営業利益率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	流動比率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	自己資本比率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	固定資産長期資本比率 (%)	率は選定時を下回っており、ランクは選定時を上回っている。		
	総 評	令和5年度も選定時（令和元年度）同様に、港湾施設の管理運営事業を行うに当たり、財務状況による支障等は見受けられない。		

(1) 損益計算書（株式会社シミズオクト 損益計算書）

(単位：千円)

科 目（項目）	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
売上高（営業収益） A	41,968,152	35,502,447	39,675,976
売上原価（営業費用） B	26,421,168	21,148,051	25,227,491
販売費及び一般管理費 C	14,004,660	12,047,829	12,272,714
〔営業利益〕 D=(A-(B+C))	1,542,322	2,306,566	2,175,770

(2) 貸借対照表（株式会社シミズオクト 貸借対照表）

(単位：千円)

科 目（項目）	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
流動資産 a	13,539,921	15,748,334	17,488,884
事業資産 b			
事業資産建設仮勘定 c			
固定資産 d	13,145,995	5,401,754	5,138,633
うち建設仮勘定 d-2	281,421	230,386	191,002
うち投資その他の資産 d-3	802,187	3,202,247	2,887,534
繰延資産 e	0	0	0
〔資産の部 計〕 E=(a+b+c+d+e) E=(a+d+e) (H20～)	26,685,916	21,150,088	22,627,517
流動負債 f	11,443,931	10,317,504	10,522,688
固定負債 g	7,090,420	1,762,377	1,438,817
引当金 h	390,052	403,377	919,510
〔負債の部 計〕 F=(f+g+h) F=(f+g) (H20～)	18,924,404	12,483,259	12,881,016
資本金 i	430,000	100,000	100,000
羽田沖浅場維持管理基金 j			
資本剰余金 l	19,504	349,504	9,646,500
利益剰余金 k	7,312,008	8,217,325	9,296,996
評価・換算差額等その他 n	0	0	0
〔純資産の部 計〕 G=(i+j+k) G=(i+l+k+n) (H20～)	7,761,512	8,666,829	19,043,496
〔負債・純資産の部 計〕 H=(F+G)	26,685,916	21,150,088	31,924,512

(3) 経営資本（年度期首期末平均）

（単位：千円）

項 目	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
〔経営資本〕 E-c-(d-2)-(d-3) E-(d-2)-(d-3)-e (H20～)	25,602,308	17,717,455	19,548,981
		R3-R4年度	R4-R5年度
	期首+期末の平均	16,042,970	18,633,218
項 目	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
〔固定負債・純資産合計〕 G+g	14,851,932	10,429,206	20,482,313

【比較表】

	選 定 時		R5年度		ランク比較
	比率等	得 点	比率等	得 点	
経営資本営業利益率 (%)	9.61	1	11.68	5	上回
経営資本回転率 (回)	2.62	2	2.13	4	上回
売上高営業利益率 (%)	3.67	3	5.48	4	上回
流動比率 (%)	118.32	3	166.20	4	上回
自己資本比率 (%)	29.08	2	59.65	5	上回
固定資産長期資本比率 (%)	88.51	2	25.09	5	上回

【ランク表】

	算 出 結 果 範 囲				
	ラ ン ク				
経営資本営業利益率	～2.5	2.5～3.5	3.5～4.5	4.5～5.5	5.5～
	1	2	3	4	5
経営資本回転率	～0.5	0.5～0.8	0.8～1.2	1.2～2.2	2.2～
	1	2	3	4	5
売上高営業利益率	～2.5	2.5～3.5	3.5～4.5	4.5～5.5	5.5～
	1	2	3	4	5
流動比率	～70	70～90	90～120	120～200	200～
	1	2	3	4	5
自己資本比率	～25	25～35	35～45	45～55	55～
	1	2	3	4	5
固定資産長期資本比率	95～	95～85	85～75	75～65	65～
	1	2	3	4	5

対 象 施 設		東京国際クルーズふ頭	指定管理者	東京国際クルーズターミナル グループ (日本空港ビルデング株式会社)
確認 項目	確 認 内 容	意 見 ・ 検 討 内 容 等		
事 業 者 財 務 状 況	経営資本営業利益率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	経営資本回転率 (回)	率、ランクとも選定時に対し、下回っている。		
	売上高営業利益率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	流動比率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	自己資本比率 (%)	率、ランクとも選定時に対し、上回っている。		
	固定資産長期資本比率 (%)	率は選定時を下回っており、ランクは選定時を上回っている。		
	総 評	令和5年度も選定時（令和元年度）同様に、港湾施設の管理運営事業を行うに当たり、財務状況による支障等は見受けられない。		

(1) 損益計算書（日本空港ビルディング株式会社 損益計算書）

(単位：千円)

科 目（項目）	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
売上高（営業収益） A	174,269,000	88,212,000	143,354,000
売上原価（営業費用） B	86,426,000	16,897,000	46,297,000
販売費及び一般管理費 C	87,371,000	63,409,000	81,400,000
〔営業利益〕 D=(A-(B+C))	471,000	7,905,000	15,656,000

(2) 貸借対照表（日本空港ビルディング株式会社 貸借対照表）

(単位：千円)

科 目（項目）	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
流動資産 a	48,048,000	100,887,000	103,799,000
事業資産 b			
事業資産建設仮勘定 c			
固定資産 d	234,377,000	205,549,000	223,836,000
うち建設仮勘定 d-2	2,807,000	8,712,000	29,423,000
うち投資その他の資産 d-3	58,509,000	64,671,000	67,121,000
繰延資産 e	0	0	0
〔資産の部 計〕 E=(a+b+c+d+e) E=(a+d+e) (H20～)	282,426,000	306,436,000	327,636,000
流動負債 f	60,754,000	58,450,000	83,936,000
固定負債 g	120,841,000	104,415,000	91,755,000
引当金 h			
〔負債の部 計〕 F=(f+g+h) F=(f+g) (H20～)	181,596,000	162,865,000	175,692,000
資本金 i	17,489,000	38,126,000	38,126,000
羽田沖浅場維持管理基金 j			
資本剰余金 l	21,309,000	54,131,000	54,131,000
利益剰余金 k	61,692,000	49,702,000	57,062,000
評価・換算差額等その他 n	3,587,000	1,620,000	2,636,000
〔純資産の部 計〕 G=(i+j+k) G=(i+l+k+n) (H20～)	100,830,000	143,571,000	151,944,000
〔負債・純資産の部 計〕 H=(F+G)	282,426,000	306,436,000	327,636,000

(3) 経営資本（年度期首期末平均）

(単位：千円)

項 目	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
〔経営資本〕 E-c-(d-2)-(d-3) E-(d-2)-(d-3)-e (H20～)	221, 110, 000	233, 053, 000	231, 092, 000
		R3-R4年度	R4-R5年度
	期首+期末の平均	230, 715, 000	232, 072, 500
項 目	R1年度（選定時）	R4年度	R5年度
〔固定負債・純資産合計〕 G+g	221, 671, 000	247, 986, 000	243, 699, 000

【比較表】

	選 定 時		R5年度		ランク比較
	比率等	得 点	比率等	得 点	
経営資本営業利益率 (%)	0.20	1	6.75	5	上回
経営資本回転率 (回)	0.76	3	0.62	2	下回
売上高営業利益率 (%)	0.27	1	10.92	5	上回
流動比率 (%)	79.09	2	123.66	4	上回
自己資本比率 (%)	35.70	3	46.38	4	上回
固定資産長期資本比率 (%)	105.73	1	91.85	2	上回

【ランク表】

	算 出 結 果 範 囲				
	ラ ン ク				
経営資本営業利益率	～2.5	2.5～3.5	3.5～4.5	4.5～5.5	5.5～
	1	2	3	4	5
経営資本回転率	～0.5	0.5～0.8	0.8～1.2	1.2～2.2	2.2～
	1	2	3	4	5
売上高営業利益率	～2.5	2.5～3.5	3.5～4.5	4.5～5.5	5.5～
	1	2	3	4	5
流動比率	～70	70～90	90～120	120～200	200～
	1	2	3	4	5
自己資本比率	～25	25～35	35～45	45～55	55～
	1	2	3	4	5
固定資産長期資本比率	95～	95～85	85～75	75～65	65～
	1	2	3	4	5